

## 医用情報工学科 3つのポリシー

### ○学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

本学は医用情報工学を専攻し、5つの教育目標について下記の10項目を修得した学生に学士（医療情報工学）の学位を授与します。

教育目標	学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）	
幅広い教養を身につける	②外国語理解・表現の基本的な能力を身につけ、国際対応や国際情報の活用に役立てることができる。	①医療人として社会で自立するための底力となる汎用的技能、態度、常識、健全な心と体を備えている。
	③文化・社会・科学と保健・医療・福祉のかかわりや、社会における自身の自立について、意見を表現することができる。	
高度な知識と技能を修得する	④医用情報工学分野の最先端の進歩や周辺・応用分野の状況を把握している。	
	⑤保健・医療・福祉分野を情報処理とシステムの両面から支える医用情報工学分野で働く専門的人材に求められる知識・技能について社会が求める水準まで修得している。	
	⑥医用情報工学の関係する現場で活用できる基本的技能を修得している。	
チーム医療に貢献する	⑦自ら医用情報工学分野の課題を発見しその解決に向けて科学的に探究し、成果等を表現するために必要な思考力・判断力・表現力を身につけている。	
	⑧チームの中で適切なコミュニケーションをとることができ、医用情報工学専門人材として主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身につけている。	
思いやりの心を育む	⑨病める人や弱者の立場を理解し、思いやりの心を共感的態度で伝えることができる。	
高い倫理観を持つ	⑩保健・医療・福祉の倫理観を理解し、患者や家族の秘密を保持し、社会のルールを遵守することができる。	

## ○教育課程編成の方針（カリキュラム・ポリシー）

- 1) 学位授与方針 10 項目を修得するための科目（群）を低学年（基礎分野）から高学年（専門基礎・専門分野）へ適切な順序で配置して教育課程を編成し、それぞれを効果的な学修方法・過程で実施し、適切な学修評価方法を採用します。
- 2) 医用情報工学は、医療の学際的学問分野であり、育成する人材には医療分野のみならず幅広い活躍の場が用意されています。低学年において情報工学の基礎と医学医療などの専門教育並びに医療人として必要な素養を身につける教育を行うことと平行して学生個別の能力や分野適格性を見極めるために小グループ能動学習を行います。
- 3) 小グループ能動学習の結果は、全教員と個々の学生が共有し、高学年での適切な教育内容の選択と教育に繋がります。
- 4) 高学年では、個々の学生の能力と希望に応じたより専門的な個別教育を行います。
- 5) 大学生として期待される水準に到達できるように教育課程を編成し、同時に、学生の習熟度に応じた支援を行います。
- 6) 特に入学した最初に行う教育が重要とされていますが、本学ではどの保健・医療・福祉分野に進む場合でも社会で自立するために共通に必要な知識・技能・態度を、全学科の学生の混成のクラスで学ぶ特色ある初年次教育「医療人底力教育」を行います。
- 7) さらに、保健・医療・福祉の夢の将来に先見性を持って対応できるよう、専門分野における最先端の状況を把握することのできる本学ならではの教育を行います。
- 8) 学修方法・過程には、講義、演習、実習、卒業研究、学外実習、ワークショップ型授業、体験型学習、反転授業、小グループ能動学習（PBL：課題探究型学習、多職種連携チーム医療実践教育）、などがあります。これらの中でも、学生が主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を促す授業（ア

クティブ・ラーニング) を行い、学生の自学自習時間を確保しつつ、さまざまな形で支援します。

- 9) 学修評価方法には、学力試験、レポート、プレゼンテーション、ルーブリック、学修ポートフォリオなどがありますが、これらを、形成的評価および総括的評価として適切に活用します。
- 10) 学生に主体的に学習に取り組む態度を促すと同時に、学生が自らの学修活動を振り返り、自己の改善に結び付ける活動（PDCA 活動）を促していきます。また、担当教員は、試験の成績、GPA、意識調査、学修ポートフォリオなどを活用して個々の学生に対して面談を実施するなどのきめの細かい学修指導を行い、学生の主体的な学習を促します。

そして、教学についてのさまざまなデータを大学として分析することにより（IR）、学生の立場に立った授業やカリキュラムの改善（FD 活動）を不断に継続していきます。

## ○入学選抜の方針（アドミッション・ポリシー）

本学は、教育目標および学位授与方針を踏まえ、医用情報工学を専攻しようとする学生のうち次のような人を受け入れます。

- 1) 保健・医療・福祉の専門的知識・技能を学ぶことができる基礎学力を持つ人
- 2) 科学的な思考力・判断力・表現力の基礎が備わっている人
- 3) 保健・医療・福祉領域で活躍しようという目的意識が明確で、自ら学ぼうとする意欲のある人
- 4) 病める人や弱者の立場に立って思いやることができる人
- 5) いのちの尊厳を理解し、社会の規律を守ることができる人
- 6) 多様な人々と適切なコミュニケーションを取り協働できる人